

進捗状況の概要（1ページ以内）

【学内の実施体制】

学部 PODS 部会が、毎月、定期部会を開催し、言語力/専門力/行動・発信力の各サブ部会の進捗を集約すると同時に、全体的な課題の調整に努めている。学部 PODS 部会は、本部長（言語文化学部長）が主催し、学部長、教育担当副学長、サブ部会長、学務部長、学務部各課課長からなり、決定事項を、全学の総合戦略会議、学部教授会、事務各課に、迅速に伝達・指示できる仕組みとなっている。

【中心となる取組】

事業では、

- 1) 全学ディプロマ・ポリシーにおいて、卒業までに身につく力として規定している言語力、専門力、行動・発信力のそれぞれに関し、その達成度を示す客観的な指標を定める。
- 2) 上記の達成状況を学務情報システムと連動した e ポートフォリオ「TUFUS Record（通称：たふれこ）」で可視化し、就職活動時には「学修活動履歴書」として配付し、卒業時には「多言語グローバル人材ディプロマ・サプリメント」として交付する、という連続する2つの取組を進めている。

【取組の成果】

約2年間の実施を経て、次のような成果をあげた。

（成果1）言語能力の客観的評価の定着：本学は英語以外の諸言語について、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）に準拠した、CEFR-J 基準を作成し、その評価システムの開発を進めている。平成28年度の被判定者は専攻言語が英語の者に限られたが、平成29年度秋に、3年次学生の専攻言語の達成度について、CEFR-J 基準に従った達成度評価を実施した。また、平成29年度末に、1年次学生、2年次学生に対して、CEFR-J 基準に従う評価を実施した。

（成果2）ディプロマ・サプリメントに対する企業のニーズの把握：本学卒業生が多く就職している企業に対し、本事業の取組についてニーズ調査を実施し、本事業の社会での受け止め方を把握した。

（成果3）学修活動履歴書の配付：学生が自身の学びの振り返りとして行う学修活動記録「TUFUS Record（たふれこ）」と企業側（社会）に向けて示す証書としての「多言語グローバル人材ディプロマ・サプリメント」の使い分けについて検討し、学生が就職活動を行う際には、企業ニーズの高い項目を中心に記載した「学修活動履歴書」、卒業時には公的に保証できる情報を記載した「多言語グローバル人材ディプロマ・サプリメント（日英両言語）」を配付することとした。これをうけ、平成29年度より、3年次学生（平成30年度卒業予定者）を対象に、「学修活動履歴書」の配付を開始した。

（成果4）ディプロマ・サプリメントの配付準備：卒業時に配付するものについては、本学卒業生がグローバルに活躍していることも踏まえ、すでに欧州で普及が進む、ディプロマ・サプリメントの方式に準拠した形式（英語／日本語）を採ることを決定し、日英両言語のディプロマ・サプリメントの作成を進めた。

（成果5）本事業の学外への普及促進：CEFR-J 基準については言語教育のスタンダードとして、外大連合を中心に、学外での普及促進に務めている。また本事業のホームページを通じて情報共有を進めている。

【補助期間終了後の継続発展に向けた取組】

本学教育の根幹をなす事業であることから、補助期間終了後も継続して実施することは教育アドミニストレーション・オフィス、及び全学の総合戦略会議で決定している。すでに一部の事業を、本学の基金により運営するなどし、経費面での継続体制を検討している。

【学内外への波及効果】

本学の事業については、シンポジウムでの事例発表を通して本学の取組の成果と課題を積極的に共有している。またホームページや雑誌媒体での情報発信も強化した。